

定期検査にて偶然発見された免疫性血小板減少性紫斑病の 1 例

喜界徳洲会病院 院長 田中 誠
湘南厚木病院 内科 勝山 泰志
千葉西総合病院 2年 清水 瑠衣

症例 75 歳、女性。高血圧、高脂血症、関節リウマチの既往有り、当院通院中の定期検査にて、血小板 $4000/\mu\text{l}$ と低下を認めた。その他の血球成分には異常を認めなかった。画像検査では、著明な脾腫、悪性腫瘍などは認めていない。来院時、出血傾向認めず、無症状であった。血小板輸血を考慮しつつ、慎重に経過観察していたところ、無治療で徐々に血小板数の増加を認めた。精査にて汎血球減少を伴わない血小板減少を引き起こすその他の疾患は除外され、免疫性血小板減少性紫斑病と診断した。同疾患は比較的多く見られるが、確定診断は困難であり、鑑別すべき他疾患も多く存在する。また、治療の開始基準も判定困難である。今後、医師として本疾患に遭遇する確率は高く、迅速な診断および方針の決定が必要となると思われる為、文献的考察も踏まえ本症例を報告する。